

継続的な学びにつながる初任者研修履修証明プログラム

調査の概要

◆課題認識

- 学び続けるモチベーションを維持し、習得した能力や専門性の成果が評価され、実感できる取組みになっていない
- 理論と実践の往還による融合を意識した研修になっていない

◆調査研究の目的

- 専修免許取得のための科目履修に係る期間の弾力的運用など本学が開発してきた初任者研修履修証明プログラムの改善
- 県及び市の初任者研修に導入可能なプログラムとなるよう内容をさらに検討

◆調査研究の方法

- 連携協力校への訪問指導（月3回）
- 大学での集合研修（月1回及び集中講義）
- 連携協力校へのアンケート調査

◆調査研究校

- 和歌山市立西浜中学校
- 和歌山市立日進中学校
- 和歌山市立楠見中学校
- 和歌山市立紀之川中学校
- 和歌山市立藤戸台小学校
- 和歌山市立有功東小学校
- 和歌山市立四箇郷北小学校
- 和歌山市立貴志小学校
- 和歌山市立貴志中学校

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

「適度な負荷」となるようプログラムの改善・実施・検証
科目履修に係る期間の弾力的運用、研修内容の適性配置、
研修の時間の適性、ワークバランスについて検討

②ポイントB

「育成指標」に沿った位置づけ
専修免許状取得を継続的目標とした教員研修全体における
当該プログラムの位置づけの検討

③ポイントC

関連プログラムで開発したワークショップの連動
当該プログラムの拡大に伴い、校内での初任者指導者の育成
の必要性が拡大

④ポイントD

プログラムの拡大
県や市の教育委員会と共同した運営体制及び財政基盤の構築

◆成果

- 訪問指導回数及び集合研修時間の削減により初任者の負担が減る（訪問回数：月4 → 月3、研修時間：90分短縮）
- 和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会との連携開始（両委員会共、次年度に向けて共同研修開催の話し合いをもつ）



今後の課題

◆「教育委員会・協力校」との連携・支援

- 初任者研修およびミドルリーダー育成研修等でのワークショップ開催
- 新規協力校との連携